

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	論理国語	単位数	2単位	学年・学科・コース	3年普通科普通コース（理系）
使用教科書	三省堂「精選論理国語」		副教材等	語彙力をつける入試漢字・新現代文単語	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 ・論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けることができる。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養うことができる。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容（ねらい）	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4 5	スポーツとナショナリズム 「である」ことと「する」こと	・スポーツとナショナリズムの関係を考察する。	○			<ul style="list-style-type: none"> ・論証したり、学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増やし、文章の中で使うことを通して、語感を磨き、語彙を豊かにしている ・文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えている ・進んで論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、学習課題に沿って、資料との関係を把握して内容や構成を的確に捉え、自分の考えを論述したり討論したりしようとしている。 	授業態度 定期考査 小テスト 課題
		・「市民社会」における権利と義務について考える。		○			
6	情報ネットワーク社会	・情報ネットワーク社会の課題を明らかにする。	○			<ul style="list-style-type: none"> ・文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解をしている。 ・主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を捉えている。 ・進んで文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深め、様々な資料を調べて発表したり話し合ったりしようとしている。 	
				○			
					○		
7 8	「私」消え、止まらぬ連鎖	・高度消費社会における「欲望」について考える。	○			<ul style="list-style-type: none"> ・論証したり、学習した基礎語句を文章の中で使用したりすることを通して語彙を豊かにしている。 ・実社会の事柄について、様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めている。 ・進んで論証したり、学習の見通しをもって、様々な観点から情報を収集したりして、自分の考えを論述しようとしている。 	授業態度 定期考査 小テスト 課題
				○			
					○		

月	学習項目	学習内容（ねらい）	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
9	コンクリートの時代	コンクリート建築から「近代」という時代の特徴を考える。	○			<ul style="list-style-type: none"> 文章の種類に基づく効果的な段落の構成や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 情報の信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして主張をしている。 構成や展開の仕方について理解を深め、自分の考えをまとめて批評し合おうとしている。 	授業態度 定期考査 小テスト 課題
				○			
					○		
10 ～ 2	マーク演習	・さまざまな文章に触れる中で、総合的な国語力を身につける。	○			<ul style="list-style-type: none"> 語句の意味や文章の論理展開を理解し、それをもとに文章を読み取り、問いに対する答えを考えることができる。 主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。 内容について、概要や要点、必要な情報を把握したり、学習した語句や表現を用いて情報や考えをまとめたり、伝えたりすることを主体的に行うことができる。 	
				○			
					○		

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	古典探究	単位数	2	学年・学科・コース	3年普通科普通コース（理系）
使用教科書	高等学校 精選古典探究（第一学習社）		副教材等	古典文法書・古文単語帳・漢文必携	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに創造したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができる。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに創造したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとすることができる。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容（ねらい）	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4 5	古歌物語 『伊勢物語』『渚の院』	・歌物語の内容を的確に読み取る。	○			・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	定期考査 小テスト 課題 授業態度
				○		・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。	
				○	・登場人物の言動や話の概要とその意味について考察しようとしている。		
6	古歴史 『史記』『荊軻』	・『史記』を読み、荊軻の生き方を通して人間の在り方について関心を深める。	○			・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。	
				○		・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。	
					○	・積極的に文章の面白さを味わい、自分に引き付けて人間の在り方について考察しようとしている。	
6	古評論 『俊頼髓脳』	・和歌がどのように享受されてきたかを調べ、本教材の位置づけについて考察する。	○			・古典を読むことを通して、我が国の文化の特質について理解を深めている。	
				○		・作品の成立した背景やほかの作品などとの関係を踏まえながら古典を読み、作品の価値について考察している。	
					○	・積極的に背景を踏まえながら評論の論旨を的確に捉え、今までの学習を生かして、自分の考えを深めようとしている。	

7 8	漢諸子百家 「孟子」「老子」	・各テーマに対する諸子百家の思想の違いを知り、ものの見方、考え方を豊かにする。	○			・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。
					○	・書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。
					○	・文章の内容からそれぞれの考え方を積極的に読み取り、その違いについて理解するとともに、各テーマに対して自分自身の考えをまとめようとしている。
9 10	古歴史物語 『大鏡』『菅原道真の左遷』	・歴史物語を背景に注意しながら読み、作品についての理解を深める。	○			・文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。
					○	・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。
					○	・積極的に歴史物語の人物関係や時代背景について調べ、登場人物の心情や人物像についての理解を深めようとしている。
11 ～ 2	マーク演習	・さまざまな文章に触れる中で、総合的な古典の力を身につける。	○			・単語や文章の展開を理解しながら、問題文を読み解くことができる。
					○	・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、古典世界に対する自分の考えを広げたり深めたりしている。
					○	・積極的に歴史物語の人物関係や時代背景について調べ、登場人物の心情や人物像についての理解を深めようとしている。

定期考査
小テスト
課題
授業態度

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	地理探究	単位数	3単位	学年・学科・コース	3年・普通科・普通コース(理系)
使用教科書	新詳地理探究(帝国書院) 新詳高等地図(帝国書院)		副教材等	2024 新地理要点ノート(啓隆社)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	地理探究の目標について、学習指導要領では次のように規定しています。社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
世界の諸事象の規則性や傾向性などを系統的に、世界の諸地域の構造や変容などを地誌的に考察した上で、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする学習過程を前提に、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性、地域的特色や課題などを理解している。	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力、地理的な課題を把握して、解決に向けて学習したことを基に複数の立場や意見を踏まえて構想できる力を身に付けている。	日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の多様な生活文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めることから、グローバル化が進み、国際理解の必要性が増している現代における重要な資質・能力を身に付けている。

2. 学習計画及び評価規準, 評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	1節 人口 1 世界の人口 2 人口の移動 2節 人口問題 1 世界の人口問題 2 日本の人口問題 3節 村落と都市 1 集落の成り立ち 2 村落の形態と機能 3 都市の成立と形態・機能 4 都市圏拡大と都市の構造	人口, 居住・都市問題の現状や要因, 解決に向けた取り組みを理解する。 主題を設定し, 関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し, 表現する。 よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとする。	○			世界各国の人口規模・分布や, 先進国と発展途上国の出生率の高低や高齢化の進行の違いについて理解している。	授業態度 学習プリント 課題 定期考査
				○		村落や都市の立地や発達, 形態, 変容の傾向や規則性について, 多面的・多角的に考察し, 表現している。	
					○	村落と都市について, 課題を主体的に追究しようとしている。	
5	4節 都市・居住問題 1 発展途上国の都市・居住問題 2 先進国の都市・居住問題 3 日本の都市・居住問題 1節 衣食住 1 世界の衣服と食生活 2 住居と衣食住の画一化	①生活文化, 民族・宗教などの空間的な規則性, 傾向性, 民族, 領土問題の要因, 解決に向けた取り組みなどについて理解する。 ②主題を設定し, 多面的・多角的に考察し, 表現する。 ③よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとする。	○			世界の都市が持続的に発展していくための課題, 日本の都市の課題と解決するための取り組みについて理解している。	授業態度 学習プリント 課題 定期考査
				○		都市が持続的に発展するための課題, 日本の都市の課題と解決の取り組みについて, 多面的・多角的に考察し, 表現している。	
					○	都市・居住問題について, よりよい社会の実現を視野にそごでみられる課題を主体的に追究しようとしている。	
6	2節 民族・宗教と民族問題 1 世界の民族・言語 2 世界の宗教 3 さまざまな民族問題 4 多文化の共生 3節 国家の領域と領土問題 1 現代世界と国家 2 領土問題 3 日本の領域と領土	①生活文化, 民族・宗教や民族, 領土問題や要因, 解決に向けた取り組みなどについて理解する。 ②主題を設定し, 多面的・多角的に考察する。 ③よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究する。	○			生活文化, 民族・宗教などに関わる空間的な規則性, 傾向性や民族, 領土問題の要因, 解決の取り組みについて理解している。	授業態度 学習プリント 課題 定期考査
				○		場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して, 主題を設定し, 地球的課題の要因や動向を多面的・多角的に考察し, 表現している。	
					○	生活文化, 民族・宗教について, よりよい社会の実現を視野にそごでみられる課題を主体的に追究しようとしている。	
7	1節 中国 1 政治体制と多様な民族 2 食生活と農業・水産業 3 工業化と海外進出 4 経済発展に伴う課題 2節 韓国 1 歴史と生活文化 2 産業の発展と生活の変化	中国の急速な経済発展に伴う地球的課題について考察する。 韓国の自然環境や歴史と生活文化, 産業の事象を項目ごとに整理して考察する。	○			中国について, 民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して理解している。	授業態度 学習プリント 課題 定期考査
				○		中国について, さまざまな事象を項目ごとに整理して, 多面的・多角的に考察し, 表現している。	
					○	韓国について, よりよい社会の実現を視野にそごでみられる課題を主体的に追究しようとしている。	

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
8 ・ 9	3節 ASEAN 諸国 1 歴史と文化・民族 2 農業とその変化 3 工業とその発展 4 ASEAN の変化と課題 4節 インド 1 産業の発展 2 人口と農村の変化 3 社会の変化と経済格差 5節 西アジアと中央アジア 1 イスラームの生活文化 2 歴史と乾燥地域の農業 3 豊富な資源を生かして進められる開発	ASEAN 諸国の文化・民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して考察する。 インドの産業の発展や農村・社会の変化、国内の経済格差をはじめとする課題を、経済成長に関連づけて考察する。 西アジアと中央アジアの二つの地域を比較し、考察する。	○	○	○	古くから農業が盛んで、近年急速に工業化が進んでいる ASEAN 諸国について、文化・民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して理解している。 西アジアと中央アジアについて、二つの地域を比較し、一般性や地域の特殊性を多面的・多角的に考察し、表現している。 西アジアと中央アジアについて、よりよい社会の実現を視野にそこのみられる課題を主体的に追究しようとしている。	
10	6節 北アフリカとサハラ以南アフリカ 1 多様な文化 2 他地域との結びつき 3 一次産品依存と課題 7節 EU 諸国 1 EU の成立と結びつき 2 多様な農業と政策 3 移り変わる EU の工業 4 EU 拡大の影響と課題	北アフリカとサハラ以南アフリカの二つの地域を比較するとともに一次産品への依存がもたらす地球的課題を考察する。 EU を中心とした政治・経済の統合と民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して考察する。	○	○	○	まとまりをもっている一方で、大きく異なる点もある北アフリカとサハラ以南アフリカについて、二つの地域を比較し、類似する一般性や地域の特殊性を理解している。 EU を中心とした政治・経済の統合と民族や産業などの事象を項目ごとに整理して、多面的・多角的に考察し、表現している。 EU 諸国について、よりよい社会の実現を視野にそこのみられる課題を主体的に追究しようとしている。	
11	8節 ロシア 1 ロシアの成立と体制変化 2 体制変化が産業への影響 9節 アメリカ合衆国 1 アメリカ合衆国の発展 2 世界の食料生産の鍵を握るアメリカ合衆国 3 進展する科学技術と産業 4 多民族社会と移民増加	ロシアの国家体制の変化に着目して工業や農業の特徴をとらえ、資源・エネルギーをめぐる地球的課題を考察する。アメリカの地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理しつつ、多民族社会や移民に関する地球的課題を考察する。	○	○	○	新しい国づくりを進めているロシアについて、農業や工業を国家体制の変化に関連づけて理解している。 アメリカ合衆国について、地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して、多面的・多角的に考察し、表現している。 アメリカ合衆国について、よりよい社会の実現を視野にそこのみられる課題を主体的に追究しようとしている。	授業態度 学習プリント 課題
12	10節 ラテンアメリカ 1 ヨーロッパの影響 2 大土地所有制と農業 3 工業化の進展と経済発展 11節 オーストラリアとニュージーランド 1 移民の歴史と多文化社会 2 自然を生かした産業 3 アジア太平洋圏との関係	ヨーロッパ諸国の植民地であった歴史的背景と文化や農業・工業をヨーロッパの影響と関連づけて考察する。 オーストラリアとニュージーランドの二つの国を比較し、類似する一般性や地域の特殊性を考察する。	○	○	○	ラテンアメリカについて、文化や農業・工業をヨーロッパの影響と関連づけて理解している。 オーストラリアとニュージーランドの二つの国を比較し、類似する一般性や地域の特殊性を、多面的・多角的に考察し、表現している。 オーストラリアとニュージーランドについて、よりよい社会の実現を視野にそこのみられる課題を主体的に追究しようとしている。	
1	1節 将来の国土の在り方 1 日本の強みと地理的な課題 2節 持続可能な日本の国土像の探究 1 課題の把握 2 課題の追究 3 課題の解決	日本の強みをより生かせる将来について考え、持続可能な社会を構築していく取り組みを考察する。日本が抱える地理的な諸課題を解決し、持続可能な社会の実現に向けた方策を考察する。	○	○	○	日本の将来について考え、持続可能な社会を構築していくには、どのようなことに取り組めばよいかについて理解している。 日本が持続可能な社会を構築していくには、どのようなことに取り組めばよいかについて、多面的・多角的に探究し、表現している。 将来の国土の在り方について、課題を主体的に探究しようとしている。	授業態度 学習プリント 課題

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	日本史探究	単位数	3単位	学年・学科・コース	3年・普通科・普通コース(理系)
使用教科書	日本史探究(東京書籍)		副教材等	新詳日本史(浜島書店)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切・効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、現在とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察・構想・説明したりする力やそれらを基に議論したりする力を養う。 よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解している。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、文化の特色などを多面的・多角的に考察し、それらを基に議論している。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	第3編第3章1節 近世社会の展開「幕藩体制の確立」	・近世の国家・社会の展開について、事象の意味や意義などを多面的・多角的に考察し、幕藩体制の確立、近世の社会と文化の特色を理解するとともに、思考力・判断力・表現力を養う。	○			・幕藩体制の確立、近世の社会と文化の特色を理解している。	定期考査 授業態度 課題 ノート・プリント
				○		・近世の国家・社会の展開について、歴史に関わる諸事象の解釈などを根拠を示して表現できる。	
					○	・内容に対して、見通しをもって学習に取り組み、自身の学習について振り返り、調整しようとしている。	
5	2節「近世社会の成熟と幕藩体制の動揺」	・幕藩体制の変容、近世の庶民の生活と文化の特色、近代化の基盤の形成を理解するとともに、思考力・判断力・表現力を養う。	○			・幕藩体制の変容、近世の庶民の生活と文化の特色、近代化の基盤の形成を理解している。	定期考査 授業態度 課題 ノート・プリント
				○		・近世の国家・社会の変容について、歴史の画期など根拠を示して表現できる。	
					○	・内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
6	第4編 近現代の地域・日本と世界 第1章 近世社会の幕開け 第2章 歴史資料と近現代の展望	・幕末から近代初頭の時期の歴史の展開と歴史的環境を関連付けて時代の転換を理解し、近代の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現する。	○			・対外関係の変容と開国、幕藩体制の崩壊と新政権の成立などをもとに、近世から近代への時代の転換を理解している。	定期考査 授業態度 課題 ノート・プリント
				○		・近世から近代の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現できる。	
					○	・近現代の地域・日本と世界に関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組み、課題を追求しようとしている。	
7 8	第3章 近現代社会の展開 1節「近現代の制度の導入と新しい国際関係」 2節「国民国家と資本主義の成立」	・近代から現代にいたる国家・社会の展開について、根拠を示して表現する学習を通じて、近代的制度の導入、アジアや欧米諸国との関係を理解するとともに、思考力・判断力・表現力を養う。	○			・近代的制度の導入、アジアや欧米諸国との関係を理解している。	定期考査 授業態度 課題 ノート・プリント
				○		・近代の政治の展開について多面的・多角的に考察できる。	
					○	・内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
9	3節「両大戦間期の日本」	・近代から現代にいたる国家・社会の展開について多面的・多角的に考察し、大衆社会の形成、アジアと欧米諸国との関係の変容を理解するとともに、思考力・判断力・表現力を養う。	○			・大衆社会の形成、アジアと欧米諸国との関係の変容を理解している。	定期考査 授業態度 課題 ノート・プリント
				○		・歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現できる。	
					○	・内容に対して、自身の学習について振り返り、調整しようとしている。	

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
10	4節「第二次世界大戦と日本」 5節「占領と改革」	・第二次世界大戦に至る過程及び大戦中の政治・社会、国民生活の変容を理解するとともに、思考力・判断力・表現力を養う。	○			・第二次世界大戦に至る過程及び大戦中の政治・社会、国民生活の変容を理解している。	授業態度 課題 ノート・プリント
				○		・第二次世界大戦と日本の動向の関わりについて、多面的・多角的に考察できる。	
					○	・内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
11	6節「国際社会への復帰と高度経済成長」 7節「アジア情勢の変化と経済大国日本」	・近代から現代にいたる国家・社会の展開について、我が国の再出発後の政治・経済や対外関係を理解するとともに、思考力・判断力・表現力を養う。	○			・我が国の再出発後の政治・経済や対外関係を理解している。	
				○		・戦後政治の展開、日本経済の発展について、歴史の画期などを根拠をしめして表現できる。	
					○	・内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
12	8節「新しい国際秩序との本の課題」	・近代から現代にいたる国家・社会の展開について、現代の政治や社会の枠組み、国民生活の変容を理解するとともに、思考力・判断力・表現力を養う。	○			・現代の政治や社会の枠組み、国民生活の変容を理解している。	
				○		・国民の生活や地域社会の変化などに着目して、歴史の画期などを根拠を示して表現できる。	
					○	・内容に対して、自身の学習について振り返り、調整しようとしている。	
1	第4章 現代の日本の課題の探究	・これまでの学習をふまえ、現代の日本の課題の形成に関わる歴史と展望について、多面的・多角的に考察、構想して表現する。	○			・先史・古代、中世、近世、近現代の学習をふまえて、現代の日本の課題を理解している。	授業態度 ノート・プリント
				○		・現代の日本の課題の形成に関わる歴史について、多面的・多角的に考察・構想して表現できる。	
					○	・自身との関わりをふまえて、持続可能な社会の実現を視野に、主体的に探求しようとしている。	

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	数学Ⅲ	単位数	4単位 (1・2学期)	学年・学科・コース	3年・普通科・普通コース(理系)
使用教科書	高等学校 数学Ⅲ(数研出版)		副教材等	チャート式 解法と演習 数学Ⅲ(数研出版) クリアー数学Ⅲ(数研出版)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	極限、微分法及び積分法について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	微分や積分を用いてグラフについて考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法	
			a	b	c			
4	第3章 微分法	・微分係数や導関数の定義を理解し、導関数を用いてグラフをかけるようにする。また、方程式や不等式を解くことができるようにする。	○			・導関数を正しく求めることができ、増減表をかくことができる。	定期考査 授業態度 課題	
5	第1節 導関数							
6	第2節 いろいろな関数の							
7	導関数			○				・導関数を正しく求めることができ、増減表を用いてグラフをかくことができる。
8	第4章 微分法の応用							・未知の関数についての方程式や不等式をグラフを用いて解くことができる。
9	第1節 導関数の応用			○				
9	第2節 いろいろな応用				・様々な関数の積分計算ができるようになる。			
6	第5章 積分法とその応用	・定積分、不定積分の定義を理解し、様々な性質や公式を導き、それらを計算に活用できるようにし、それらを用いて面積や体積を求めることができるようにする。	○					
7	第1節 不定積分							
8	第2節 定積分					・積分を用いた方程式を解きことができる。また、不等式の証明ができる。		
9	第3節 積分法の応用			○				
10						・微分を用いて関数のグラフをかき、積分を用いて面積や回転体の体積を求めることができる。		
11								
12								
1								
2								

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	数学B	単位数	1単位 (1・2学期)	学年・学科・コース	3年・普通科・普通コース(理系)
使用教科書	高等学校 数学B(数研出版)		副教材等	チャート式 解法と演習 数学B(数研出版) クリアー数学B(数研出版)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	数列について理解を深めさせ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
数列についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
6 7 8 9 10	【復習】 第1章 数列 第1節 等差数列と等比数列	・数列やその一般項の表し方について理解する。また、基本的な数列として等差数列と等比数列を理解し、それらの和を求められるようにする。また、これらの数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を培う。	○			・等差数列の公差、一般項、等比数列の公比、一般項などを理解している。 ・等差数列、等比数列の項を書き並べて、隣接する項の関係が考察できる。 ・数の並び方に興味をもち、その規則性を発見しようとする意欲がある。	定期考査 授業態度 課題
7 8 9 10 11	【復習】 第2節 いろいろな数列	・和の記号 Σ の表し方や性質を理解し、活用できるようにする。また、いろいろな数列について、その一般項や和を求めたり、和から一般項を求めたりできるようにする。	○			・和の求め方の工夫をして、数列の和が求められる。 ・初項から第 n 項までの和に着目して、一般項を考察できる。 ・数列の規則性を、隣り合う 2 項の差を用いて発見しようとする。	
8 9 10 11 12 1 2	【復習】 第3節 漸化式と数学的帰納法	・数列の帰納的な定義について理解し、漸化式から一般項が求められるようにするとともに、複雑な漸化式を既知のものに帰着して考えられるようにする。また、数学的帰納法の仕組みを理解し、様々な命題の証明に活用できるようにする。	○			・初項と漸化式から数列の一般項が求められる。 ・複雑な漸化式を、おき換えなどを用いて既知の漸化式に帰着して考えることができる。 ・おき換えや工夫を要する複雑な漸化式について、考察しようとする。	

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	数学C	単位数	1単位 (1・2学期)	学年・学科・コース	3年・普通科・普通コース(理系)
使用教科書	高等学校 数学C(数研出版)		副教材等	チャート式 解法と演習 数学C(数研出版) クリアー数学C(数研出版)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	平面上の曲線と複素数平面について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	第3章 複素数平面	複素数を使った座標の捉え方を理解し、複素数特有の処理をできるようにする。 また、図形の問題に複素数を用いて解決できるようになり、ベクトルでの解法との類似点を理解する。	○			・複素数特有の処理ができる。 ・複素数を極形式で表すことができる。 ・ド・モアブルの定理を用いて高次の複素数を処理することができる。 ・図形の問題に複素数を用いて解くことができる。	定期考査 授業態度 課題
5	第1節 複素数平面			○			
6	第2節 極形式				○		
7	第3節 ド・モアブルの定理						
8	第4節 複素数と図形						
9							
7	第4章 式と曲線	放物線、楕円、双曲線の定義を正しく理解し、その性質を用いて焦点、漸近線を求めることができるようになる。 また、グラフをかくことにより、方程式や不等式を解くことができるようになる。	○			・焦点、漸近線を求めることができる。 ・平行移動を用いて方程式、不等式を求めることができる。 ・図形の問題を2次曲線の性質を正しく用いて解くことができる	
8	第1節 放物線			○			
9	第2節 楕円				○		
10	第3節 双曲線						
11	第4節 平行移動						
12	第5節 2次曲線と直線						
1	第6節 2次曲線の性質						
2							

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	物理	単位数	5単位	学年・学科・コース	3年・普通科・普通コース(理系)
使用教科書	高等学校 物理(第一学習社)		副教材等	物理研究ノート(博洋社)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<p>中学校理科及び「物理基礎」との関連を図りながら、物理的な事物・現象を更に深く取り扱い、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。 ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ・物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法	
			a	b	c			
4	第I章 運動とエネルギー 第4節 円運動と単振動 ①円運動 ②慣性力と遠心力 ③単振動 実験4 単振り子の周期	<ul style="list-style-type: none"> ・等速円運動の角速度、周期、回転数、速度、加速度と向心力を理解する。 ・遠心力を含めた慣性力を学習し、物体にはたらく力を異なる観測者の立場で把握できるようにする。 ・単振動の速度や加速度、復元力を表す式について理解する。 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・等速円運動をする物体の速度、角速度、加速度、向心力などの定義を理解し、それぞれを式で表すことができる。 ・観測者の立場によって生じる、運動する物体にはたらく力の違いを説明することができる。 ・単振動における変位、速度などの式を意欲的に導出しようとする。 	定期考査 授業態度 課題 レポート	
				○				<ul style="list-style-type: none"> ・観測者の立場によって生じる、運動する物体にはたらく力の違いを説明することができる。
					○			<ul style="list-style-type: none"> ・単振動における変位、速度などの式を意欲的に導出しようとする。
5	④万有引力による運動 第5節 気体の性質と分子の運動 ①気体の法則 ②気体の分子運動 ③気体の内部エネルギーと仕事	<ul style="list-style-type: none"> ・ボイルの法則やシャルルの法則などの気体に関する法則を学習し、理想気体の状態方程式について理解する。 ・気体の内部エネルギー、気体の体積変化に伴う仕事を学習し、熱力学の第1法則を理解する。 ・定積変化や定圧変化などの気体の状態変化を学習し、各状態変化で熱力学の第1法則を適用できるようにする。 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・気体に関する法則や気体の状態方程式を用いて、計算することができる。 ・運動量と力積の関係を用いて、気体分子の運動をもとに、気体の圧力を導くことができる。 ・日常での経験と照らし合わせて気体の圧力と体積、温度の関係を考え、物理学的に理解しようとしている。 		
				○				<ul style="list-style-type: none"> ・運動量と力積の関係を用いて、気体分子の運動をもとに、気体の圧力を導くことができる。
					○			<ul style="list-style-type: none"> ・日常での経験と照らし合わせて気体の圧力と体積、温度の関係を考え、物理学的に理解しようとしている。
6	第II章 波動 第1節 波の性質 ①正弦波 ②波の伝わり方 第2節 音波 ①音の伝わり方 ②ドップラー効果 第3節 光波 ①光の性質 ②レンズと鏡	<ul style="list-style-type: none"> ・$y-x$ グラフ、$y-t$ グラフのそれぞれの特徴について理解する。 ・波源の移動と波長の変化を学習し、音源や観測者が動くさまざまな場合のドップラー効果について、式を用いて理解する。 ・光の速さを学習し、反射、屈折、全反射などの光の進み方について理解する。 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・音源や観測者が動く場合の音波の波長や振動数の変化について、式を用いて理解する。 ・$y-x$ グラフ、$y-t$ グラフから、振幅や周期、波長などの物理量を読み取ることができる。 ・身のまわりの波に関する現象に関心をもち、物理学的な観点から自ら進んで考察しようとしている。 		
				○			<ul style="list-style-type: none"> ・$y-x$ グラフ、$y-t$ グラフから、振幅や周期、波長などの物理量を読み取ることができる。 	
					○		<ul style="list-style-type: none"> ・身のまわりの波に関する現象に関心をもち、物理学的な観点から自ら進んで考察しようとしている。 	

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
7	③光の回折と干渉 探究7 ヤングの実験 第Ⅲ章 電気と磁気 第1節 電場と電位 ①静電気力 ②電場	・ヤングの実験や回折格子による光の干渉を学習し、薄膜による干渉、くさび形空気層による干渉など、さまざまな場合における光の干渉条件を理解する。 ・電場の基本的な性質を学習し、電場と電気力線の関係、一様な電場について理解する。	○			・ヤングの実験や回折格子による光の干渉など、さまざまな光の干渉条件について式を適用する。	
				○		・ヤングの実験、回折格子による光の干渉を学習し、薄膜、くさび形空気層などによる光の干渉条件を導くことができる。	
					○	・光の干渉を利用して、光の波長を求める方法について意欲的に考えようとする。	
8	③電位	・電位の基本的な性質を学習し、等電位面と電気力線の関係について理解する。	○			・静電誘導、誘電分極を踏まえ、電場中の導体、不導体における電場、電位の様子を理解する。	定期考査 授業態度 課題 レポート
				○		・帯電した金属板間の導体や不導体について、電場や電位の様子をグラフに表すことができる。	
					○	・電場や電位の関係、等電位面と電気力線の関係、静電誘導、誘電分極の現象などを自ら進んで理解しようとする。	
9	④コンデンサー 第2節 電流 ①電流と抵抗 ②直流回路 探究9 電池の起電力と内部抵抗 ③半導体	・コンデンサーを接続したときの合成容量、静電エネルギーについて理解する。 ・電流計、電圧計、電池の内部抵抗について理解し、さまざまな回路において、キルヒホッフの第1、2法則を適用する。 ・ホイートストンブリッジや電位差計のしくみを学習し、非直線抵抗やコンデンサーを含む回路について理解する。	○			・キルヒホッフの法則をもとに、ホイートストンブリッジや電位差計の回路のしくみを理解する。	
				○		・キルヒホッフの法則を理解し、さまざまな回路での電流、電圧を考えることができる。	
					○	・電流計、電圧計などの各計器の内部抵抗について、その役割を理解しようとしている。	
10	第3節 電流と磁場 ①磁場 ②電流が作る磁場 ③電流が磁場から受ける力 ④ローレンツ力 第4節 電磁誘導と交流 ①電磁誘導 ②自己誘導と相互誘導 ③交流	・磁場中で電流が受ける力について、フレミングの左手の法則や右ねじの関係を用いて定量的に理解する。 ・ファラデーの電磁誘導の法則を学習し、磁場中を動く導体に生じる起電力や、導体を動かすのに要する力や仕事との関係を理解する。 ・交流の発生するしくみを理解し、交流回路における抵抗、コイル、コンデンサーの特性を理解する。	○			・電流が磁場から受ける力の向きを、フレミングの左手の法則などを用いて考えることができる。	
				○		・ローレンツ力の性質をもとに、荷電粒子の運動を考えることができる。	
					○	・交流が発生するしくみに関心をもち、抵抗、コイル、コンデンサーの特性を考えようとする。	
11	④電磁波 第Ⅳ章 原子 第1節 電子と光 ①電子 ②光の粒子性 ③X線 ④粒子の波動性 第2節 原子と原子核 ①原子の構造 ②原子核と放射線 ③核反応とエネルギー ④素粒子と宇宙	・光電効果とその特徴を学習し、光電子の運動エネルギーと仕事関数との関係を定量的に理解する。 ・水素原子における電子の軌道半径やエネルギー準位について、式を用いて理解する。 ・放射性崩壊における特徴と原子核の安定性について理解する。	○			・光電効果の特徴やその実験過程を理解し、仕事関数や光電子の最大運動エネルギーを計算できる。	
				○		・ボーアの量子条件と物質波による考え方の関係を結びつけて考える。	
					○	・これまでに学習した法則をもとに、コンプトン効果でのX線光子、電子の運動を意欲的に考えようとする。	
12	1 2	演習(大学入学共通テスト、個別学力試験)					

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	化学	単位数	5単位	学年・学科・コース	3年・普通科・普通コース(理系)
使用教科書	東京書籍「化学 Vol.1 理論編」「化学 Vol.2 物質編」		副教材等	新課程版 2024 セミナー化学基礎+化学	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<p>化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。 ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ・化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
実験などを通して、その基本的な概念や原理・原則などを理解しているとともに、実験に関する基本操作や記録などの基本的な技術を身に付けている。	化学が果たす役割について、問題を見いだし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。	化学が果たす役割について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	1編 物質の状態 2章 気体の性質 1節 気体 2節 気体の状態変化	・ボイル・シャルルの法則や気体の状態方程式、ドルトンの分圧の法則を理解する。	○			・ボイル・シャルルの法則、気体の状態方程式、ドルトンの分圧の法則について理解している。	定期考査 授業態度 提出物 小テスト 授業ノート
		・混合気体における圧力や、水上置換による気体の圧力の求め方を考える。		○		・混合気体や実在気体と理想気体の違いについて、科学的に考えている。 ・熱気球といった身近な現象から、気体の性質を考えようとしている。	
5	1編 物質の状態 3章 溶液の性質 1節 溶解 2節 希薄溶液の性質 3節 コロイド	・イオン結晶と極性分子、無極性分子の溶解について溶媒の種類と関連付けて考える。	○			・質量モル濃度などの計算方法や、溶解のしくみについて理解している。	
		・純溶媒と不揮発性の物質を溶かした希薄溶液の違いを理解する。 ・コロイド溶液の性質を理解する。		○		・沸点上昇、凝固点降下、コロイド溶液などの性質の違いをグラフを用いて考えている。 ・生活の中の気体の溶解や沸点上昇などの現象を、学習したことを元に考えようとしている。	
6	2編 化学反応とエネルギー 1章 化学反応と熱・光 1節 反応とエンタルピー変化 2節 ヘスの法則 3節 光とエネルギー	・反応エンタルピー ΔH やエンタルピーを理解する。	○			・反応エンタルピーの種類やエンタルピー、ヘスの法則について理解している。	
		・ヘスの法則を用いて、結合エンタルピーや反応エンタルピーを求める。 ・化学反応と光の放出や吸収について理解する。		○		・ヘスの法則を利用して、結合エンタルピーや反応エンタルピーを求める方法を考えている。 ・光合成やルミノール反応など、様々な化学反応に関心を持つことができる。	
	3編 化学反応の速さと平衡 1章 化学反応の速さ 1節 反応の速さ 2節 反応速度を変える条件 3節 反応のしくみ	・条件の違いによる反応速度の違いを理解する。	○			・化学反応とエネルギーの関係を理解している。	
		・化学反応とエネルギーの関係を理解する。		○		・濃度、温度、触媒による反応速度の変化を説明することができる。 ・濃度や温度の変化によって反応速度がどう変化するか、科学的に見いだしている。	
	3編 化学反応の速さと平衡 2章 化学平衡 1節 可逆反応と化学平衡 2節 平衡の移動 3章 水溶液中の化学平衡 1節 電離平衡 2節 塩の水への溶解	・可逆反応について理解し、平衡定数を求める。	○			・可逆反応、不可逆反応などの用語を理解し、平衡定数Kを求めることができる。	
		・ルシャトリエの原理と平衡の移動を理解する。 ・緩衝液、塩の加水分解、溶解平衡などの仕組みを理解する。		○		・ルシャトリエの原理を理解し、平衡移動について説明することができる。 ・緩衝作用や塩の加水分解、溶解平衡などの仕組みを説明することができる。 ・濃度や温度の変化によって化学平衡がどう移動するか、科学的に見いだすことができる。	

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
7 8	4編 無機物質 1章 周期表と元素 2章 非金属元素の単体と化合物 3章 典型金属元素の単体と化合物 4章 遷移元素の単体と化合物	・周期表と元素の特徴を関連付けて理解する。 ・様々な無機物質の特徴を理解し、その性質を正しく説明できる。	○			・周期表や様々な無機物質の特徴を理解することができる。	定期考査 授業態度 提出物 小テスト 授業ノート
				○		・硫化水素と金属イオンの反応など、物質の性質や特徴を、比較しながら説明することができる。	
					○	・工業化学の発展や、身近な利用に興味を持ち、主体的に学ぶことができる。	
9	5編 有機化合物 1章 有機化合物の特徴と構造 2章 炭化水素 3章 アルコールと関連化合物 4章 芳香族化合物	・様々な有機化合物の特徴を理解し、その性質を正しく説明できる。 ・官能基の性質や反応性を理解し、有機化合物の構造を推定する。 ・有機化合物の性質を理解し、分離を説明できる。	○			・脂肪族や芳香族など、様々な有機化合物の特徴を理解することができる。	定期考査 授業態度 提出物 小テスト 授業ノート
				○		・アルコールの酸化やフェーリング液の還元反応など、物質の性質や特徴から、有機化合物の推定を行うことができる。	
				○		・有機化合物の性質を理解し、分離・精製の手順を説明することができる。	
					○	・工業化学の発展や、身近な利用に興味を持ち、主体的に学ぶことができる。	
10	6編 高分子化合物 1章 高分子化合物とは何か 2章 天然高分子化合物 3章 合成高分子化合物	・様々な高分子化合物の特徴を理解し、その性質を正しく説明できる。 ・高分子化合物の呈色反応の仕組みを構造と関連付けて説明できる。	○			・糖やたんぱく質など、様々な高分子化合物の特徴を理解することができる。	授業態度 提出物 授業ノート
				○		・糖やたんぱく質など、様々な高分子化合物の構造から、ヨウ素デンプン反応などの呈色反応の仕組みについて説明することができる。	
11 以降	共通テスト対策演習 二次試験対策演習	・入試問題等の演習に取り組むことで、これまでの既習事項との関連を見出す。			○	・工業化学の発展や、身近な利用に興味を持ち、主体的に学ぶことができる。	授業態度 提出物 授業ノート
					○	・既習事項を結びつけ、科学的視点をもって論理的に考えることができる。 ・主体的に演習に取り組むことができる。	

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	生物	単位数	5単位	学年・学科・コース	3年・普通科・普通コース(理系)
使用教科書	生物(数研出版)		副教材等	リードα 生物基礎+生物(数研出版) 進研 WINSTEP 生物(株式会社ラーズ)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<p>生物や生命現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生命現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生命現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 生物や生命現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
生物や生命現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法	
			a	b	c			
4	第2編 生命現象と物質 第2章 細胞と分子 第1節 生物物質と細胞 第2節 タンパク質の構造と性質 第3節 化学反応にかかわるタンパク質 第4節 膜輸送や情報伝達に関わるタンパク質	<ul style="list-style-type: none"> 細胞を構成する代表的な物質とその特徴について理解する。 タンパク質の構造と機能との密接な関係について理解する。 酵素の基本的な性質と、酵素が働く反応条件について理解する。 生体膜を介した物質輸送と、それに関わるタンパク質の働きについて理解する。 	○			<ul style="list-style-type: none"> 生物の基本単位である細胞の構造とその特徴について理解する。 酵素反応を調節するしくみについて理解する。 ミトコンドリアや葉緑体が、核とは別の独自のDNA をもっている理由を考え、説明することができる。 生物物質と細胞に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 		
				○				<ul style="list-style-type: none"> 生体内で起こる化学反応の一部は酸化還元反応であり、反応に際して大きなエネルギーの出入りを伴うことを理解する。 呼吸と発酵では、グルコース1分子から得られるATP 量に大きな違いがある理由を説明することができる。 代謝とエネルギーに関心をもち、主体的に学習に取り組める。
					○			
5	第2編 生命現象と物質 第3章 代謝 第1節 代謝とエネルギー 第2節 呼吸と発酵 第3節 光合成	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸では、有機物が酸化されるのに伴う一連の酸化還元反応によってエネルギーが取り出され、ATP が合成されることを理解する。 光合成では、光エネルギーを用いてATPと電子の運搬体が合成され、これらを用いて二酸化炭素が還元されて有機物が生じることを理解する。 	○			<ul style="list-style-type: none"> DNA 複製のしくみを理解する。 ラクトースオペロンに突然変異が生じた2種類の突然変異株に野生株のDNA を導入する実験の結果に基づいて、それぞれの突然変異株についてDNA のどの領域に異常があったのか説明できる。 遺伝子を扱う技術に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 	定期考査 授業態度 小テスト 課題	
				○				
					○			
6	第3編 遺伝情報の発現と発生 第4章 遺伝情報の発現と発生 第1節 DNA の構造と複製 第2節 遺伝情報の発現 第3節 遺伝子の発現調節 第4節 発生と遺伝子発現 第5節 遺伝子を扱う技術	<ul style="list-style-type: none"> DNA が正確に複製される詳しいしくみを理解する。 転写されたRNA からタンパク質が合成されるしくみを理解する。 原核生物と真核生物において、それぞれの遺伝子発現が調節されるしくみを理解する。 遺伝子を扱うさまざまな技術について、その原理を理解する。 	○			<ul style="list-style-type: none"> 受容体の種類によって、刺激を受け取るしくみがそれぞれ異なることを理解する。 軸索を刺激する実験の資料に基づき、ニューロンの興奮に見られる性質を見いだすことができる。 ニューロンとその興奮に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 	定期考査 授業態度 小テスト 課題	
				○				
					○			
7	第4編 生物の環境応答 第5章 動物の反応と行動 第1節 刺激の受容 第2節 ニューロンとその興奮	<ul style="list-style-type: none"> 受容体の種類によって、刺激を受け取るしくみがそれぞれ異なることを理解する。 ニューロンの興奮は細胞膜で生じる電気的な変化であり、イオンチャネルやポンプのはたらきで生じることを理解する。 	○			<ul style="list-style-type: none"> 受容体の種類によって、刺激を受け取るしくみがそれぞれ異なることを理解する。 軸索を刺激する実験の資料に基づき、ニューロンの興奮に見られる性質を見いだすことができる。 ニューロンとその興奮に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 	定期考査 授業態度 小テスト 課題	
				○				
					○			

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
8	第4編 生物の環境応答 第3節 情報の結合 第4節 刺激への反応 第5節 動物の行動	・ヒトの神経系が、末しょう神経系と中枢神経系から構成されていることを理解する。 ・筋肉が、神経系から伝達されてきた刺激を受け取って収縮するしぐみを理解する。 ・動物の行動は、遺伝的にプログラムされた生得的な行動と経験によって変化する学習行動によって形成されることを理解する。	○			・ヒトの脳の構造とそれぞれの部位がもつはたらきについて理解する。	
				○		・反射が無意識のうちに起こる理由を、興奮の伝達経路と関連づけながら説明することができる。	
					○	・刺激への反応に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。	
9	第4編 生物の環境応答 第6章 植物の環境応答 第1節 植物の生活と植物ホルモン 第2節 発芽の調節 第3節 成長の調節 第4節 器官の分化と花芽形成の調節 第5節 環境の変化に対する応答 第6節 配偶子形成と受精	・植物は、周囲の環境の変化を感じて、自らのからだを適切な時期に適切な状態へと変化させていることを理解する。 ・植物の成長は、光や重力などの要因によって調節されていることを理解する。 ・植物は、葉・茎・根・花といった器官からなり、これらの器官への分化を通して植物が成長することを理解する。 ・被子植物における配偶子形成と受精のしぐみを理解する。	○			・植物は周囲の環境の変化を感じて、その環境に応答することを理解する。 ・植物の種子が、周囲の環境を感じて休眠・発芽するしぐみを理解する。	定期考査 授業態度 小テスト 課題
				○		・茎や根が必ず先端部から少し基部側で曲がる理由について考え、説明することができる。 ・花芽の形成が日長によって引き起こされることの利点について考え、説明することができる。	
					○	・器官の分化と花芽形成の調節に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。 ・配偶子形成と受精に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。	
10	第5編 生態と環境 第7章 生物群集と生態系 第1節 個体群の構造と性質 第2節 個体群内の個体間の関係 第3節 異なる種の個体群間の関係 第4節 生態系の物質生産と物質循環 第5節 生態系と人間生活	・個体群の成長のしかたには個体群密度が影響していることを理解する。 ・同種の動物が集まって暮らすことで生じる利益と不利益を理解する。 ・生物群集の中で多様な生物種が共存できるしぐみを理解する。 ・上位の栄養段階の生物では、利用できるエネルギー量に限りがあることを理解する。 ・生態系や生物多様性の保全の重要性を理解する。	○			・個体群の個体数の変化には、その個体群の年齢構成や年齢ごとの死亡率などが影響することを理解する。 ・群れや縄張りについて、その大きさに応じて生じる利益と不利益の兼ね合いによって、最適な大きさが存在していることを理解する。	
				○		・3種のゾウリムシのなかまの飼育時の個体群密度の変化の資料に基づいて、生活上の要求の違いによって異なる個体群が共存できていることを見出すことができる。	
					○	・生態系の物質生産と物質循環に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。 ・生態系と人間生活に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。	
11 12 1	共通テスト対策演習 二次試験対策演習	・既習の学習内容と関連付けて共通テストや二次試験の対策を行い、理解を深める。				・演習を通して、生物の既習事項を確認し、理解している。 ・演習を通して、生物の既習事項について説明することができる。 ・演習を通して、生物の既習事項について自分考えを調整しながら理解しようとしている。	授業態度 課題

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	体育	単位数	2単位	学年・学科・コース	3年・普通科・普通コース、スポーツコース
使用教科書	なし			副教材等	Active Sports (大修館)

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。 ・運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 ・生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身につけている。また、個人及び社会生活における健康・安全について総合的に理解しているとともに、技能を身につけている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人及び社会生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	体づくり運動	・心と体の関係に気づき、仲間と交流する。	○			<ul style="list-style-type: none"> ・自己のねらいに応じて効果的な成果を得るための適切な運動の行い方を理解できる。 ・自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 ・体づくり運動の学習に主体的に取り組もうとしている。 	授業態度 学習カード
	体育理論	・スポーツから得られる恩恵とスポーツについての課題の双方から、多角的に思考し判断し表現する学習を通して、個人がスポーツ文化を創造する主体となっていることに気づく。	○			<ul style="list-style-type: none"> ・豊かなスポーツライフの設計の仕方について理解できる。 ・ライフステージにおけるスポーツの楽しみ方を見出し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに他者に伝えること。 ・体育理論の学習に主体的に取り組もうとしている。 	
5	器械体操	<ul style="list-style-type: none"> ・(器械体操)技ができる楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方、運動の観察、体力の高め方を理解する。 ・(陸上競技)記録の向上や競争及び自己や仲間の課題を解決するなどの多様な楽しさや喜びを味わい、各種目特有の技能を身につける。 ・(ダンス)感じを込めて踊ったり仲間と自由に踊ったり、自己や仲間の課題を解決したりするなどの多 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・(器械体操)回転系の接転技群、ほん転技群の基本的な技、巧技系の平均立ち技群の基本的な動きを理解するとともに、自己に適した技で演技することができる。 ・(陸上競技)技術と関連させた運動や練習を繰り返したり継続して行ったりすることで結果として体力を高めることができることを理解できる。 ・(ダンス)イメージを深めた表現や踊りを通じた交流や発表を理解できる。 ・(器械体操)自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えることができる。 	
6	陸上競技(競走・跳躍・投擲)						
7	ダンスから選択						
8							

		様な楽しさや喜びを味わい、それぞれ特有の表現や踊り方を身につけて交流や発表する。				・(陸上競技)自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えることができる。 (ダンス)作品の創作や発表会に向けた仲間と話し合う場面で合意形成するための関わり方を見付け、仲間に伝えることができる。	
					○	・(器械体操・陸上競技・ダンス)自主的に取り組み、互いに助け合い教え合うことや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にできる。	
9	体育理論	・スポーツから得られる恩恵とスポーツについての課題の双方から、多角的に思考し判断し表現する学習を通して、個人がスポーツ文化を創造する主体となっていることに気づく。	○			・ライフスタイルに応じたスポーツとの関わり方について理解できる。	
					○	・自己や自己を取り巻く環境の変化を予想し、自己や社会についての課題を発見し他者に伝えることができる。	
					○	・ライフスタイルに応じたスポーツとの関わり方について主体的に取り組むことができる。	
9 10	球技・武道から選択 球技(ゴール型・ネット型 ベースボール型) 武道(剣道・柔道)	・(球技)勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する。 ・(武道)勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、得意技などを用いた攻防を展開する。	○			・(球技)型や種類によって必要な体力要素がありその型や種目の技能に関連させながら体力を高めることができる。 ・(武道)伝統的な考え方は対戦相手は「道」を追及する大切な仲間であることを理解できる。	授業態度 学習カード
					○	・(球技)チームでの学習で状況に応じてチームや自己の役割を他者に伝えることができる。 ・(武道)練習や試合の場面で自己や仲間の危険を回避するための活動の仕方を提案することができる。	
					○	・(球技)一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にすることができる。 ・(武道)相手を尊重し礼法などの伝統的な行動の仕方を大切にしようとするすることができる。	
10	体づくり運動	・健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための継続的な運動の計画たて、取り組む。	○			・体力の構成要素は健康に生活するための体力と運動を行うための体力に密接に関係していることを理解することができる。 ・学習課題に応じて、これまでに学習した内容を学習場面に応用することができる。	授業態度 学習カード
					○	・一人一人の違いを大切に、健康・安全を確保することができる。	
					○	・(球技)型や種類によって必要な体力要素がありその型や種目の技能に関連させながら体力を高めることができる。 ・(武道)伝統的な考え方は対戦相手は「道」を追及する大切な仲間であることを理解できる。	
11 12 1 2	球技・武道から選択 球技(ゴール型・ネット型 ベースボール型) 武道(剣道・柔道)	・(球技)勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する。 ・(武道)勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、得意技などを用いた攻防を展開する。	○			・(球技)チームでの学習で状況に応じてチームや自己の役割を他者に伝えることができる。 ・(武道)練習や試合の場面で自己や仲間の危険を回避するための活動の仕方を提案することができる。	授業態度 学習カード
					○	・(球技)一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にすることができる。 ・(武道)相手を尊重し礼法などの伝統的な行動の仕方を大切にしようとするすることができる。	
					○	・(球技)一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にすることができる。 ・(武道)相手を尊重し礼法などの伝統的な行動の仕方を大切にしようとするすることができる。	

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	英語コミュニケーションⅢ	単位数	4単位	学年・学科・コース	3年・普通科・普通コース
使用教科書	BLUE MARBLE English Communication Ⅲ (数研出版)		副教材等	ユメタンI(アルク) 総合英語 FACTBOOK(桐原書店)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする発展的な能力を養う。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
英語の特徴やきまりに関する事項を理解するとともに、これらの知識をコミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、適切に活用できる技能を身につけようとしている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や、話し手や書き手の考えや気持ちなどを的確に理解し、これらを論理性に注意して伝えようとしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語でコミュニケーションを図ろうとしている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4 ・ 5	■Lesson 2 Protecting Our Brains from Smartphones	・本文を読み、概要や要点を把握することができる。また、本文の内容を再生することができる。 (以下同) ・スマートフォンの過度な使用による弊害とその対策について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す／書くことができる。	○			新出語や Key Phrases, Key Language の言語材料、本文の論理展開を理解し、それをもとに、文章を読み取ることができる。	定期考査 発問評価 提出物 小テスト
				○		本文の内容について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり、書くことができる。	
					○	内容について、概要や要点、必要な情報を把握したり、基本的な語句や文を用いて情報や考えを伝えたりすることを主体的に行うことができる。	
6	■Lesson 3 Wrapping: Reinventing a Cultural Tradition	・[Lesson 2~共通] ・日本の「包む」文化とごみ問題について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す／書くことができる。	○			新出語や Key Phrases, Key Language の言語材料、本文の論理展開を理解し、それをもとに、文章を読み取ることができる。	
				○		本文の内容について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり、書くことができる。	
					○	内容について、概要や要点、必要な情報を把握したり、基本的な語句や文を用いて情報や考えを伝えたりすることを主体的に行うことができる。	

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
7 ・ 8	■Lesson 4 Paving the Way to a More Inclusive Society	・[Lesson 2~共通] ・点字ブロックの誕生と今後の可能性について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す／書くことができる。	○			新出語や Key Phrases, Key Language の言語材料、本文の論理展開を理解し、それをもとに、文章を読み取ることができる。	定期考査 発問評価 提出物 小テスト
				○		本文の内容について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり、書くことができる。	
					○	内容について、概要や要点、必要な情報を把握したり、基本的な語句や文を用いて情報や考えを伝えたりすることを主体的に行うことができる。	
9	■Lesson 7 Perceptions of Time in Different Cultures	・[Lesson 2~共通] ・文化によって異なる時間感覚について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す／書くことができる。	○			新出語や Key Phrases, Key Language の言語材料、本文の論理展開を理解し、それをもとに、文章を読み取ることができる。	
				○		本文の内容について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり、書くことができる。	
					○	内容について、概要や要点、必要な情報を把握したり、基本的な語句や文を用いて情報や考えを伝えたりすることを主体的に行うことができる。	
10 ～ 2	総合問題演習	・より難易度が高く、語数が多い文章を読んだり聞いたりして、概要や要点を把握することができる。 ・既習の文法事項や語句、表現を用いて、より難易度が高い英作文問題や文法問題に取り組むことができる。	○			新出語や重要表現、文の構造、文章の論理展開を理解し、それをもとに文章を読み取り、問いに対する答えを考えることができる。	
				○		長文問題、文法問題について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を書くことができる。	
					○	内容について、概要や要点、必要な情報を把握したり、学習した語句や表現を用いて情報や考えをまとめたり、伝えたりすることを主体的に行うことができる。	

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	論理・表現Ⅲ	単位数	文系3単位 理系2単位	学年・学科・コース	3年・普通科・普通コース
使用教科書	English Logic and Expression III		副教材等	Next Stage / Steady Steps to Writing	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	各単元の応用的な文法項目を正しく用いて表現することができ、時事問題や現代社会が抱える問題などの題材について自分のことを伝え、相手の言うことを理解しようとする意欲的なコミュニケーションを取る姿勢を身につける。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
応用的な文法事項の意味や働きについて理解し、書く・話す／伝え合う技能を身につけている。	各単元の題材について、筋道を立てて適切な英語で詳しく伝え合うことが出来る。	各単元の題材について、筋道を立てて適切な英語で伝え合おうとし、また、自分の発話を振り返り、改善点を見出している。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	Lesson 1 A City Worth Visiting	受動態を適切に使う。 動詞の形を意識する。	○			動詞の活用について理解している。 動詞の活用を適切に用いて伝え合う技能を身につけている。	発問評価 定期考査 提出物 小テスト
	Lesson 2 Our Hometowns			○		町の紹介や生まれ育った町について筋道を立てて詳しく伝え合うことが出来る。	
					○		
5	Lesson 3 What Makes a City Attractive?	話し手がどう思っているかを助動詞で表す。 何と何を比べているのか意識する。	○			助動詞と比較について理解している。 助動詞と比較を適切に用いて伝え合う技能を身につけている。	
	Lesson 4 How Do You Spend Your Time?			○		魅力ある街づくりの提案や時間の過ごし方について筋道を立てて詳しく伝え合うことが出来る。	
					○		
6	Lesson 5 Trying Something New	比較級の前で差の程度を示す。 副詞や形容詞で程度を表す	○			差や程度を表す英語表現について理解している。 差や程度を表す英語表現を用いて伝え合う技能を身につけている。	
	Lesson 6 The Art of Translation			○		スポーツや翻訳が伝えるものについて筋道を立てて詳しく伝え合うことが出来る。	
					○		スポーツや翻訳が伝えるものについて筋道を立てて伝え合おうとし、また、自分の発話を振り返り、改善点を見出している。

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
7	Lesson 7 Combatting Climate Change Lesson 8 Pure Energy Sources	関係代名詞を使って名詞に説明を加える。 分詞で名詞に説明を加える。	○			関係代名詞・分詞について理解している。 関係代名詞・分詞を適切に用いて伝え合う技能を身につけている。	発問評価 定期考査 提出物 小テスト
				○		気候変動やこれからのエネルギー源について筋道を立てて詳しく伝え合うことができる。	
					○	気候変動やこれからのエネルギー源について筋道を立てて伝え合おうとし、また、自分の発話を振り返り、改善点を見出している。	
8	Lesson 9 Discussing the Environment Lesson 10 Globalization and Immigration	不定詞で名詞に説明を加える。 不定詞で「～すること」を表す。	○			不定詞について理解している。 不定詞を適切に用いて伝え合う技能を身につけている。	
				○		環境問題やグローバル化について筋道を立てて詳しく伝え合うことができる。	
					○	環境問題やグローバル化について筋道を立てて伝え合おうとし、また自分の発話を振り返り、改善点を見出している。	
9	Lesson 11 What is Fair Trade? Lesson 12 Helping to Fight Poverty	動名詞で「～すること」を表す。 不定詞に副詞の働きをさせる。	○			動名詞と不定詞について理解している。 動名詞と不定詞を適切に用いて伝え合う技能を身につけている。	
				○		フェアトレードや貧困のない世界について筋道を立てて伝え合う技能を身につけている。	
					○	フェアトレードや貧困のない世界について筋道を立てて伝え合おうとし、また、自分の発話を振り返り、改善点を見出している。	
10 ～ 2	総合問題演習	応用的な英文法の知識を基に高度な英文を理解し、自らの考えを適切な英語で表現する力を身につける。	○			文法事項を理解している。	
				○		文法事項を理解したうえで高度な英文を読解または文字で表現できる。	
					○	文法事項を理解したうえで筋道を立てた英語表現ができる。	